



平成28年度 全国安全週間

本週間 / 7月1日~7月7日

◀ 準備期間 / 6月1日~6月30日 ▶

STOP! 転倒災害

プロジェクト

※県内では、労働災害の4件に1件は転倒災害です!

宮崎労働局 転倒

検索

安全週間スローガン

見えますか? あなたのまわりの 見えない危険 みんなで見つける 安全管理

第12次労働災害防止推進計画の目標

- 死亡者数を第11次計画期間(平成20年~24年)より**15%以上減少**
- 死傷者数(休業4日以上)を平成24年と比較して平成29年までに**15%以上減少**(死傷者数を第11次計画期間より15%以上減少)

中間報告(速報)

- 死傷災害でみると、全産業では現在のところ目標達成は相当厳しい状況となっています。特に林業、運輸交通業、第三次産業は、更なる労働災害防止活動が望まれます



全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で89回目を迎えます。この間、労働災害は、長期的に減少し、平成27年は統計を取り始めて以来初めて、年間の死亡者数が1,000人を下回っております。これは産業安全に携わった多くの先人がたゆみなく安全活動を展開した結果得られた画期的な成果であります。

一方、近年の産業構造の変化に伴って、拡大を続ける第三次産業等においては未だに安全に関して自ら取り組む意識が十分とは言えないところがあります。また、経験が浅い労働者が職場に潜む危険を察知できないことなどを背景として、休業を含む労働災害全体の数は十分な減少傾向にあるとは言えない現状にあります。第12次労働災害防止計画では、死傷災害において平成24年比で平成29年までに15%以上減少させることを目標としておりますが残り2年で目標を達成するには、相当な努力が必要となっているところです。

さて、宮崎労働局における第12次労働災害防止推進計画の中間報告(速報)では、3年経過した時点で死傷災害は目標件数1,183件に対して1,285件発生し、目標値を8.6%(3年経過時速報値)上回っており、目標達成は相当厳しいものとなっております。昨年の宮崎県内における労働災害件数は、死亡者数は前年比1件減の14件で、休業4日以上死傷者数は上述しましたように前年比14件減(1%減)の1,285件でした。また、本年も既に4件(5月15日現在)の死亡災害が発生しています。特に建設業においては、昨年5件、今年に入っても1件発生しているところです。

〔熱中症の予防対策をお願いします〕



あんぜんプロジェクト

- * 企業の参加
 - * 『見える』安全活動コンクールの実施
- ※詳しくは、「あんぜんプロジェクトHP」へ

プロジェクトメンバー
500社以上

このような状況を踏まえ、更なる労働災害の減少を図ることを決意して、平成28年度の全国安全週間は「見えますか? あなたのまわりの 見えない危険 みんなで見つける 安全管理」をスローガンに、企業をはじめ関係各界での安全意識の高揚と安全活動の定着を図るため、6月1日から6月30日までを準備期間として、7月1日から7月7日までを本週間として実施されます。

リスクアセスメントで
災害ゼロ!!



毎年、県内でこのような転倒災害が約300件発生しています

ぬれた床面での転倒



階段での転倒

足元不注意での転倒



暗い場所での転倒

チェックリストの有効活用をお願いします!

◇ 安全週間及び準備期間中に実施する事項 ◇

- 安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一及び安全意識の高揚
- 安全パトロールによる職場の総点検の実施
- 安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会等の開催、安全関係資料の配布等の他、ホームページ等を通じた自社の安全活動等の社会への発信
- 労働者の家族への職場の安全の文書の送付、職場見学等の実施による家族の協力の呼びかけ
- 緊急時の措置に係る必要な訓練の実施
- 「安全の日」等の設定のほか全国安全週間及び準備期間にふさわしい行事の実施



◇ 継続的に実施する事項 ◇

- 安全衛生活動の促進
 - ・安全衛生管理体制の確立
 - ・職業生活における教育計画の樹立と効果的な安全衛生教育の実施等
 - ・自主的な安全衛生活動の促進
 - ・リスクアセスメントの普及促進
(化学物質のリスクアセスメントについては、平成28年6月1日義務化)
 - ・安全に係る知識や労働災害防止のノウハウの着実な継承
 - ・外部の専門機関、労働安全コンサルタントを活用した安全衛生水準の充実
- 業種横断的な労働災害防止対策
 - ・転倒災害防止対策 (STOP! 転倒災害プロジェクト)
 - ・交通労働災害防止対策
 - ・非正規雇用労働者等に対する労働災害防止対策
 - ・熱中症予防対策
 - ・腰痛予防対策
- 業種の特性に応じた災害防止対策及び特定の災害防止対策
 - ・製造業、建設業、陸上貨物運送事業、第三次産業、林業の労働災害防止対策



主唱 宮崎労働局
宮崎労働基準監督署
延岡労働基準監督署
都城労働基準監督署
日南労働基準監督署

協賛 (公社)宮崎労働基準協会
建設業労働災害防止協会宮崎県支部
林業・木材製造業労働災害防止協会宮崎県支部
陸上貨物運送事業労働災害防止協会宮崎県支部
(公社)建設荷役車両安全技術協会宮崎県支部
(独)宮崎産業保健総合支援センター

宮崎県産業安全衛生大会

とき 平成28年11月11日(金)13時~
ところ 宮崎市佐土原総合文化センター

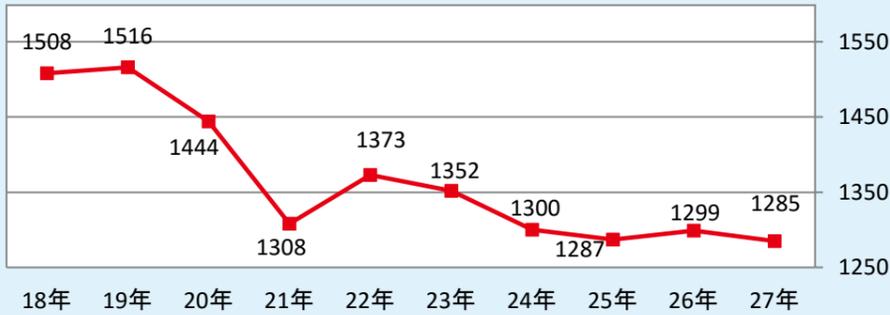
全国産業安全衛生大会

とき 平成28年10月19日(水)~21日(金)
ところ 宮城県仙台市(仙台市体育館ほか)

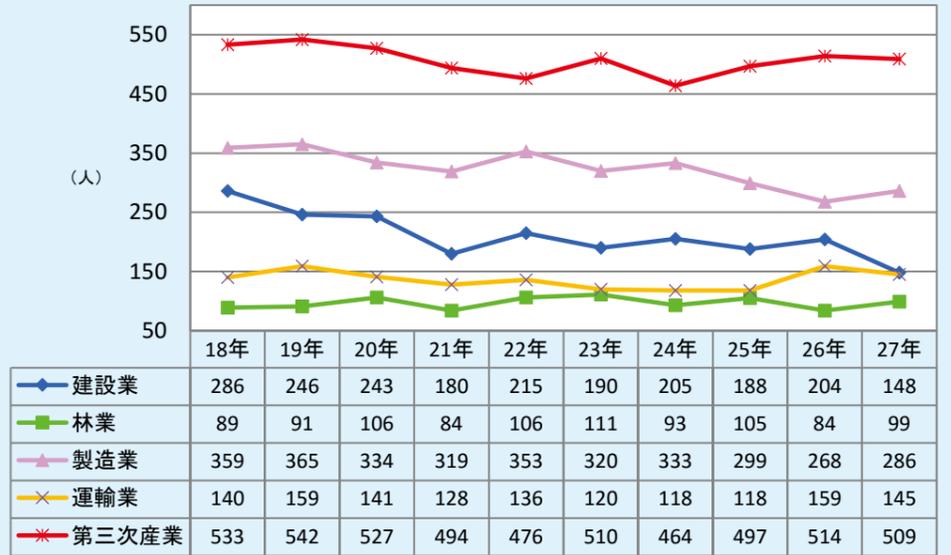
宮崎県における労働災害の現状

労働災害死傷者数の推移

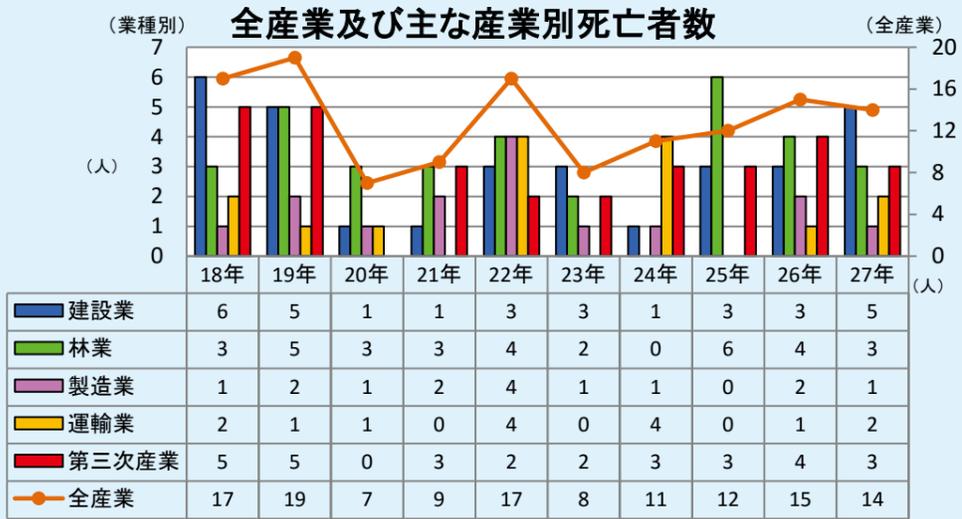
■ 休業4日以上の死傷者数



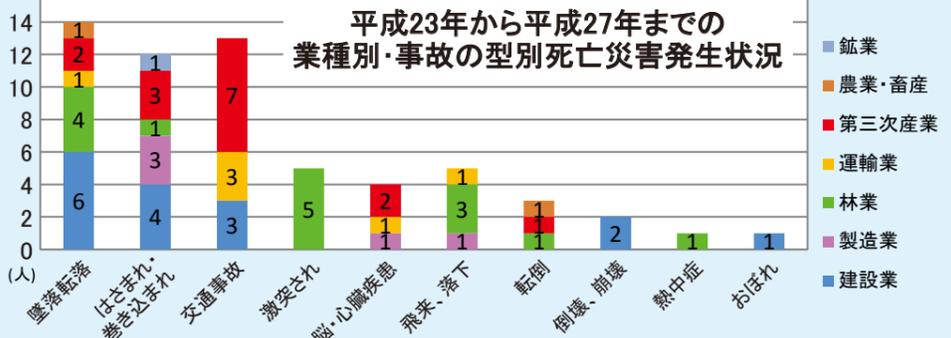
主要産業別死傷者数(休業4日以上)の推移



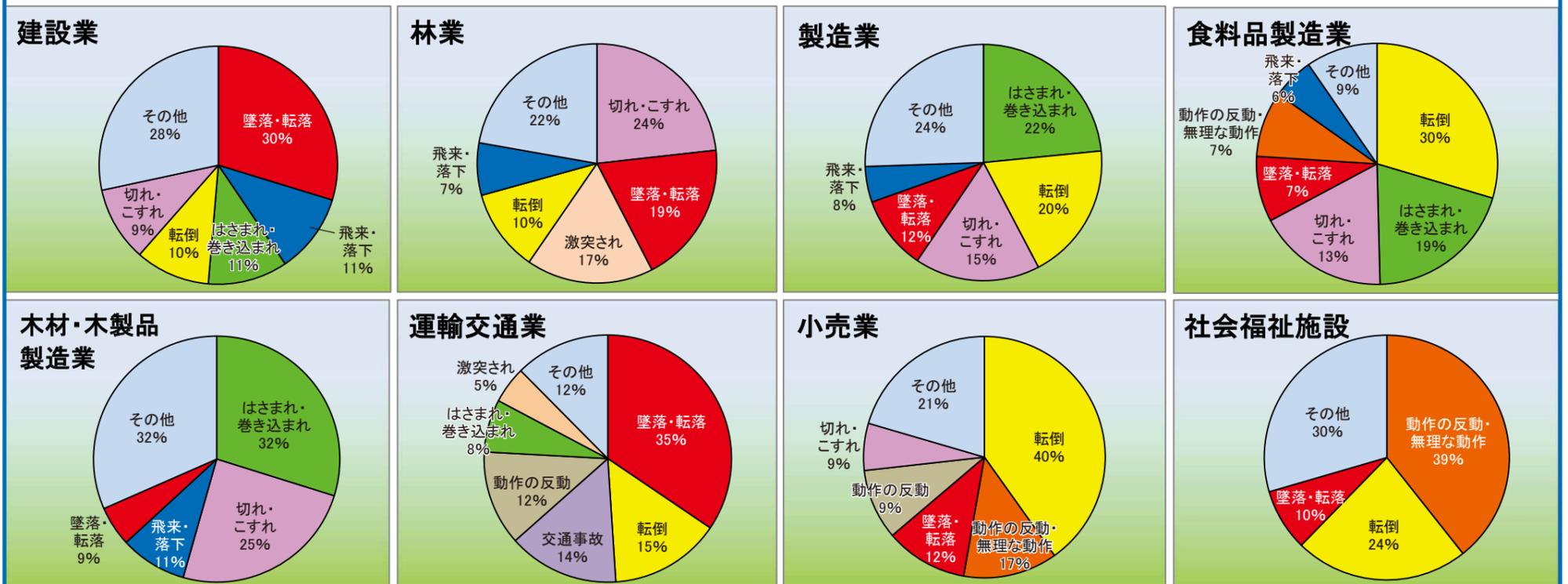
全産業及び主な産業別死亡者数



平成23年から平成27年までの業種別・事故の型別死亡災害発生状況



休業4日以上死傷災害 事故の型別(H27年)



平成27年死亡災害の発生状況

番号	業種	年齢	災害発生状況
1	木材伐出業	50代	伐採現場において、被災者がチェーンソーを使用して杉を伐倒したところ、伐倒した杉が近くの切株に当たり、退避していた被災者の方に跳ね、被災者は跳ねた杉と近くにあった立木との間に挟まれた。
2	土木工事業	20代	工事に使用していた資材に不具合が生じたため予備の資材を取りに、被災者はワゴン車に乗って会社事務所向かった。被災者は、東九州自動車道を走行していたところ、中央分離帯から反対車線に進入し、対向車2台と衝突した。
3	土木工事業	40代	遊歩道の手すりの改修工事において、ドラグショベルで手すりの基礎（コンクリート2次製品）を地中に埋め、余掘りの埋戻し作業を行っていたところ、作業場所上方法面の岩石等が崩壊し、ドラグショベルの周辺にいた被災者を直撃し、崩壊した岩石とともに約5m下の谷側に転落した。
4	小売業	50代	交差点において、被災者が右折のため信号待ちしていたところ、直進してきた加害者が運転する乗用車が被災者の乗用車後方に激突し、その衝撃で前方に突き飛ばされ被災者の前方で信号待ちしていた乗用車に衝突した。
5	ソフトウェア業	40代	ソフトウェアの開発に従事していた被災者が、夜、自宅の庭において、過重労働により心停止を発症した。
6	土木工事業	60代	建設現場近くの県道で、ドラグショベル（0.2m）をトラックから降ろすため交通誘導を行っていたところ、走行してきた軽トラックにはねられた。
7	バス業	70代	被災者が高さ85cmの脚立に登って、中型バスの後部窓を清掃していたところ、しばらくたって地面に倒れているのを発見された。被災者は何らかの原因により脚立から墜落し、地面に頭を打ち付けたものと推定される。
8	窯業土石製品製造業	60代	コンクリートの再生砕石を製造する機械の固定式ベルトコンベアを被災者と同僚の2人で補修を行い、補修が完了したので機械を再稼働した。被災者は一人でベルトコンベアの下部に移動したところ、駆動ローラー部分に右腕を挟まれ、切断した。
9	建築工事業	40代	4階建のショッピングセンターの屋上にある高架水槽の配管保温工事において、被災者が搭屋屋上で作業していたところ、搭屋と搭屋外周に設置してあった足場との隙間（約30cm）から約4m下のショッピングセンター屋上に墜落した。
10	一般貨物自動車運送業	30代	被災者運転のトレーラー（20tの荷物を積載）が、片側1車線の右カーブで曲がりきれず電柱に衝突した。その衝撃でキャビンは大破し、被災者はシートとキャビン天井に身体が挟まれた。
11	保険業	50代	被災者が歩道を自転車で移動していたところ、後方から歩道を走行してきた軽乗用車にはねられた。
12	木材伐出業	70代	木材伐出現場における作業路網の開設作業において、ドラグショベルのバケット部分のフックにワイヤロープを掛け、伐倒木に玉掛けて引きずりながら搬送・集積を行っていたところ、作業路の奥で伐倒木の玉掛け作業を行っていた被災者が、引きずっていた伐倒木と山側法面との間に挟まれた。
13	木材伐出業	60代	林道脇の杉の立木（樹高28.8m、胸高直径60cm）を同僚が伐倒したところ、伐倒木が林道を歩いていた被災者の頭部に直撃した。
14	トンネル建設工事業	20代	トンネル切羽付近のズリ積み作業を終了したドラグショベルが、次の作業に向かうため後進したところ、ドラグショベル右後方に立ち入っていた被災者の両足をひいた。